

「死語」には二つの種類がある。一般的には「以前、使われていたが今は殆ど使われなくなった言葉」が「死語」であり、つまり「極めて稀には使われうる言葉」である。これに対して真の「死語」がある。それは「全く誰も使わなくなってしまった、忘れ去られた言葉」である。前者を「仮死語」、後者を真の意味での「死語」としておこう。

しかし、ある言葉が真の「死語」として認知されるのは矛盾に満ちたことだ。例えば（ ）という語が死語になる時点ということ考えるとすれば、それはその言葉を使う者が誰も居なくなった時点であり、また当の語の意味が完全に分からなくなってしまった時点であろう。しかし、（ ）という語があったことを発見した時、発見者自身がその語を使う者として蘇るのであり、発見の瞬間に語の意味もまた蘇る。つまり、ある「死語」の発見は、ある意味において使用された語があったこと、発見に他ならない。墓が暴かれた時、死者は既に僅かながら息を吹きかえすのである。（鼻孔に鏡をあて、曇りが生じれば、それはまさしく「吹きかえ」された息のぬくもりなのだ。死者の鏡は曇ることなく澄んでいる。鏡の映しだすのは息の通わぬ真つ暗な鼻孔の内壁だけだ。）

ある語が「仮死語」として認知されるのはその語を知っている人数が何人以下になった時だろう。そしてそれは誰によって判定されるのだろうか。

我々は先に述べた理由によって真の死語に決して出会うことはない。そして、「死語」という語だけは決して死語にならない。何故なら「死語」という語は、他の全ての語を喪うために、いや消え去ってしまったことを記憶するために、最後まで残らなくてはならないからだ。だから「死語」という語は、どのような言語においても、あらゆる単語が消えた後に最後まで残る墓石だ。そしてそれは決して消えることはない。だから、当然のことながら、消滅した言語-殆ど全ての単語が死語になった言語-でも「死語」に匹敵する単語だけは残りつづけている筈だ。丁度、あらゆる消滅した民族、人種において、その喪儀屋だけは生き続けているように。とすると、ある言語全体が「死語」化されたと判定できるのは、その言語を使う人数が、その民族、人種の最後の喪儀屋の一群の人数と一致した時であろう。勿論、彼等の持っていた文化の違いによって、喪儀に必要な最低の人数は異なる。ある場合は一人かもしれないし、またある場合は百人以上（その大半は「泣き女」だが。）かもしれない。（とにかく、まず死者が、そして喪儀屋さえあれば喪式は成立する。次に必要なのは会葬者であり、その次が喪主、最後に僧侶だ。この順位はその人にとっての死体の必要度によって決定される。当然、死体は死者のアイデンティティーの根源であるから、まず死者が一番死体が必要とする。逆に僧侶にとって、死体など焼いてしまった後も何回でも法事で稼ぐことが出来るので、死体の必要度は低い。）

ある事を調べているうちに何か不安が生じることがある。それは「事柄」の関係性（関係の關係）を解きほぐしているうちに、ふと「ジブンハ何か重要ナコトヲ見逃シテイルノテハナイカ」と感じる時である。それは関係と関係を結ぶ何か欠落しているのに気付く時である。あまりにも奇麗に欠落しているので、そこに何かあったということさえ判別し難い。何も無いことを見付けるのは、何かあることを見付けるよりはるかに難しいと言われるが、その理由は、そこに何かあったのかもしれないという状態と、本当に何も無いという状態の判別がつきにくいからだ。どちらにしても今、そこには何も無い。しかし前者の場合、過去に何かあったとすれば「何も無い」と言いきれる訳ではない。

こと言葉の問題として言えば、言葉が消えてもその意味が、消えた言葉のあった周辺に浮遊していることがある。その意味は、どのような言葉にも取ろうとはしない。言葉の、ではなく、意味の落ち着きが悪いのだ。

言語には面白い性質があって、どんなに単語が減ろうが、増えようが、その時点においては完全無欠に見えるので、何時の間にか幾つか「死語」になっても、それが欠落として認識されることはない。ただ時として、全単語の数に比較して過剰に意味が溢れかえっているような言語生活をしている人々に出会うことがある。すると我々は浮遊する余剰な意味を補うだけの「死語」が潜んでいることに気付くのだ。（それは丁度、古代遺跡のある土地を散策する時の気分似ている。）

そういう具合に「死語」の豊富な言語を使っている人達は、だから過剰な多弁になるか、寡黙になるかのどちらかである。多弁になるのは、何とかして失われた言葉の代理を他の語で努めさせようとするあまりであり、そういう人達の会話は聴くにくだい。一方、寡黙な一群は、おそらく日常生活に必要な最低限度以下まで単語を失ってしまった人達である。彼等の会話は聴いていても（会話を聴く機会を得ることさえも困難なのだが）切なくなる程、まさかこんな状況でこんな語が選択されようとは、と思う程に多義的な言葉を慈しむように漏らす。

多弁な人達にも、寡黙な人達にも共通して言えることは、会話の際に実に豊富な身体言語を用いる点である。あまりにも豊富で、嫌味な程である。手話程には分節化していないが手は勿論のこと、それ以上に顔面筋、足腰、ひいては頭髪を始めとして、見える限りの体毛、動かせるなら耳も動員して表現に努める。これはこれで見方によっては新しい言語体系が獲得されつつあるようにさえ思えるのだが、どうかすると単に退化して動物に近付いているだけにさえ見えるのだ。しかし、発想を逆にすれば何のことはない、つまり身体言語の死語化によって、我々は代償的に言葉を、文字を獲得してきたといえるだけなのだ。

「死語」を愛するということは、つまりディレンマに住まわれることなのである。

## LOVING OBSOLETE WORDS...

There are two kinds of "obsolete word": firstly there are words which are used only very occasionally nowadays. Secondly there are real "obsolete words" which are used by nobody and completely forgotten. Let us call the former "temporarily-obsolete word", and the latter "obsolete words" in the real meaning.

However, it is contradiction that a certain word becomes recognised to be "obsolete". For instance, a word ( ) becomes "obsolete", when those who use the word no longer exist, and the meaning of the word is no longer understood. Conversely when ( ) is discovered, the discoverer himself comes back to life as a user of the word, and at the same time the meaning of the word revives. Thus, the discovery of an "obsolete word" is nothing but the discovery of the fact that the word used to have a particular meaning. A grave is opened and a dead man nearly comes to life. (The mist made by putting a mirror under his nostrils shows the warmth of breath which has been "revived". The dead's mirror shows no blur; the mirror reflects only the adenoids of his nostrils, devoid of breath.)

For a word to be recognised as "obsolete", how few people should know it? Who should judge it?

For these reasons, we never encounter real obsolete words. The phrase "obsolete word", however, never becomes obsolete, because it must survive until the end for the purpose of ousting all other obsolete words, or rather recording that they have all gone. Therefore, the phrase "obsolete word" is a tombstone which remains even after all words have disappeared from any language. Naturally, even dead languages - languages whose words have become almost completely obsolete - must retain a word equivalent to "obsolete word". It could be compared to an undertaker who remains alive in tribes or races that have become extinct. Therefore, we will be able to recognise a language whose words have all become "obsolete" when the number of the people who use the language matches that of the last undertakers for the tribe or race to which they belong. The minimum number of people required to attend a funeral varies according to culture. In some cases, it may be just one person, in others over a hundred (although the majority would be "women weepers"). In any case, a funeral can be performed only if the dead person and undertaker are present. The next requirement will be mourners, then the chief mourner, and finally a priest/monk. This order is decided according to the degree each person needs the corpse. The corpse is the source of identification of the dead, so the dead person needs the corpse most. On the other hand, a priest/monk does not necessarily place importance on the corpse itself because he can earn money by holding as many masses (for the repose of the dead's soul) as he wants after cremation.

You sometimes feel uneasy while you are investigating a problem. This is when you start to wonder - "am I overlooking something important?" - while you are discovering the relations between the matters (relations of relations), you realise that something connecting one relation to another is missing. It is so beautifully hidden that it is even hard to judge what was there. It is said that discovering the absence of something is far more difficult than discovering its presence. This is because it is difficult to distinguish the state that there might have been something there from there really being nothing there. In either case, there is nothing left there now. However, in the former case, you cannot positively say, "there is nothing", if there was something present in the past.

Even if a word disappears, its meaning may be "floating" where the word used to be. The meaning cannot be expressed in any words. The meaning, not the word, has become a homeless wanderer.

Languages have an interesting nature; no matter how much the number of words decreases or increases, the language always seems complete, so that even if some words become "obsolete", they will not be recognised as missing. However, we sometimes encounter those who use everyday language whose number of meanings by far exceeds that of the words themselves. We then realise there are enough "obsolete words" to make up for the superfluous floating meanings. (It is similar to the feelings evoked by the sight of ancient ruins.)

Therefore, people who use a language abundant in "obsolete words" are either too loquacious or taciturn. The loquacious try to cover lost words with other words, and their talk is tedious. The taciturn, on the other hand, have probably lost words which have become unnecessary for everyday life. When we hear them use words with many meanings (although such opportunities are rare) with great affection, it is almost painful to see how their words are chosen.

What both types of people have in common is their use of a very rich body language; so rich that we might even think it offensive. Although it is not subdivided like the finger language, facial muscles, feet, hips, fingers, even their hair and as many body hairs as you can see, and ears if movable, are all used as a means of expression. It may seem that a new language system is being established, but they could also be simply degenerating into animals. On the other hand, we have also obtained language and letters in return for body languages that have become "obsolete".

Loving "obsolete words" is thus living between two horns of a dilemma.



## あの人たちがやってくる

生誕の時はあらかじめ探りあてられる  
 生誕の場所を買い取りに  
 あの人たちがやってくる

上も並も  
 片輪、水子も  
 すべて売り物だから

"You'd better start swimming or  
 you'll sink like a stone."  
 "You'd better start rolling or  
 you'll gather dirty moss."  
 "Run, don't walk any more. Run for..."

消滅の時も買い占めに  
 あの人たちがやってくる

## 犬は溺れ死ぬ

「誰かが呼んでる」

川の底から呼び掛ける声  
 どこにもいない主人の声  
 応えの一吠え 橋から飛び込み  
 犬は溺れ死ぬ

水に映った自分の姿を  
 敵と思ひ込み 身構え  
 威嚇の一吠え 橋から飛び込み  
 犬は溺れ死ぬ

川の底にはゴミや石ころ  
 臍に濡れ込む泥水  
 足をもがけば 何かが絡まり  
 引き込まれていく

廻まる木切れも葉もない  
 あつても掴めない  
 必死に吠えて もがいてもグツリするだけ  
 すぐに楽になる

## 使用中の手足

あなたの使用中の手足  
 あなたの使用中の手足  
 貸して 貸して 貸して  
 貸して 貸して 貸して  
 「時間いくら」で  
 貸して 貸して 貸して  
 貸して 貸して 貸して  
 「他人のため」に

あなたの使用中のアタマ  
 あなたの使用中のアタマ  
 貸して 貸して 貸して  
 貸して 貸して 貸して  
 「時間いくら」で  
 貸して 貸して 貸して  
 貸して 貸して 貸して  
 「わたしのため」に

あなたの使用中の手足  
 あなたの使用中の手足  
 売って 売って 売って 売って 売って  
 売って 売って 売って 売って 売って  
 「グラムいくら」で  
 売って 売って 売って 売って 売って  
 売って 売って 売って 売って 売って  
 「他人のため」に  
 売って 売って 売って 売って 売って 売って 売って  
 「わたしのため」に

作詞・作曲・演奏・録音  
 166 東京都杉並区高円寺北 3-22-8 離氷ハウス2F  
 藤本和男方 G E S O

## テキスト氏の弁明

遺書は白紙 宛名もない  
 意匠凝らしたテキスト氏の弁明  
 明日の遊びはアナグラムで決めて  
 今日は決めない-何も

分析次第で意味付けなどし放題  
 分析次第で意味付けなどし放題

雑誌社から戻ってくる  
 没に決ったテキスト氏の文面  
 脈絡乱れ 取り付く島もない  
 見知らぬ文字も躍る

分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで

思想の衣装をすっかり脱ぎ捨て  
 失踪したきり 雀も知らない

母は白痴 言葉もない  
 父も知らない テキスト氏の運命  
 ベッドの裏に見つかった走り書き  
 <別途見積もり お願い>

分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで

死相に化粧をしてやることより  
 しっかり死体と合体しなさい

分析しないで 意味付けなどしないで  
 分析しないで 意味付けなどしないで...

## おろかな雲

紫色した街で見つけた  
二人の名前が好きでした  
とてもしゃなりと切りぬけた  
つかれたところでよく燃える Midnigher

焚火たちと踊りだして  
あれこれとうわさはしゃいでへらへら  
髪の毛は内心ヒヤヒヤ  
真先にのぼってくわくわ

「Momently Cloud」 「Tonight War」

雲になれずふわふわ  
晴れる日まで身をまかせば  
眠りに入った僕たちに合図をするから知る指先の...  
おろかな雲は白く幅うすく  
透けて見えた君の声も  
こらして見れば雲のひとすじ  
それが君とも気付かずに

家族たちがさわぎだして  
あれこれとうわさをペラペラ  
揃きだしたサインは紫色  
What is that! Oh my Cure Cure

## ごめんよ

おかしいね あなたが一番似合うのは  
おかしいねあきらめが一番早いのは  
...いやでしょ こんなんじや一番似合う  
ちょっぴり ただちょっぴり...  
こんなんじや また...

おかしいね あなたが一番似合う  
キヤツ キヤツ キヤツ  
本当の事を 教えてくれよ  
本当の事を 教えてくれよ  
...考えすぎ

おかしいね あなたが一番似合うのに  
おかしいね あきらめが一番早いのは  
ただただ ちょっぴり  
キヤツ キヤツ キヤツ Smile  
キヤツ キヤツ キヤツ Soleil  
...考えすぎ

おかしいね おかしいね おかしいね  
教えてくれよ教えてくれよ教えてくれよ  
本当の事を... 考えすぎ  
Smile ...Soleil

## 仕出し屋が来る

脳味噌が 何なのか知らぬ  
信じられぬ程先が見えない  
グロテスクな 生きた肉達と  
血の飢えすらない癖に平然とよどむ  
何がいるのか こんなに小さい宇宙の肉は  
「いやあ思いだした思いだした ごめんな」  
動脈通って血管の中を  
するり登り立つ脳味噌の変  
玄關はうしろ 脳味噌は隣  
行きたくはない 脳味噌の力  
グロテスクな 生きた肉は血の気はなし  
平然とよどむ 何がいるのお？  
こんなに小さい 宇宙の肉は  
今から起きて 懐かしいままに人になって知る  
振られてみたい脳味噌の力

作詞・作曲・演奏・録音

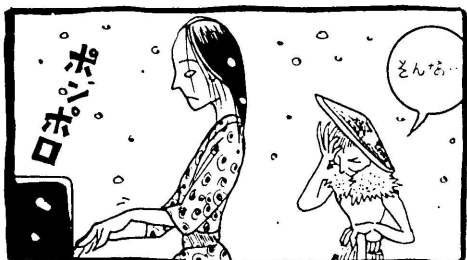
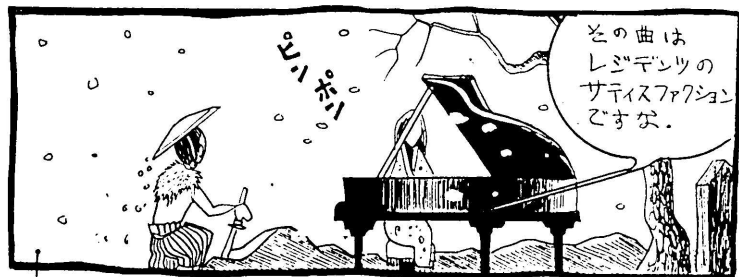
倉地 久美夫

151 東京都渋谷区幡ヶ谷 3-11-10

あさひ荘

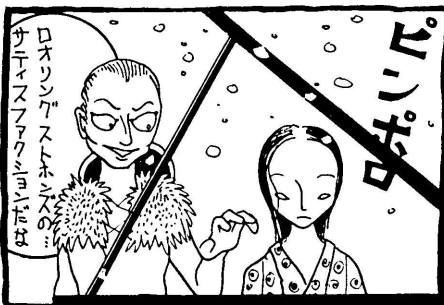
# 峠のピアニスト



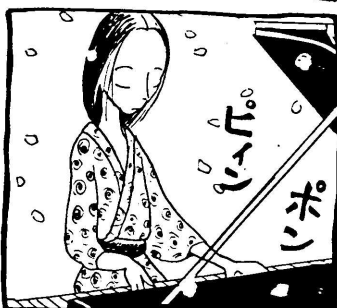
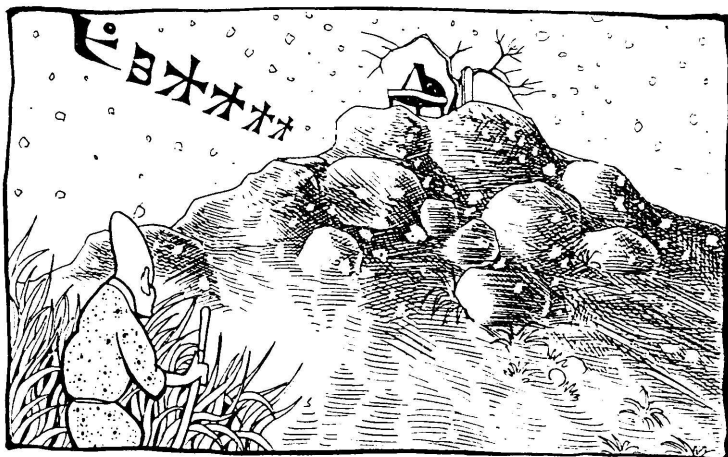


※ CAN と Captain Beefheart とちらもサティスファクションのカバーはしてない(笑)









— 終り —



片面：4曲/GESO [作詞・作曲・演奏・録音]

①あの人たちがやってくる

②犬は溺れ死ぬ

③テキスト氏の弁明

④使用中の手足

[付加雑音・サククス/ONNYK]

\*〒166 東京都杉並区高円寺北3-22-8 碓氷ハウス2F 藤本和男

カップリング・ミニ・アルバム

# 「死語を愛して…」

LOVING THE OBSOLETE WORDS...

ざらざらした  
歌。

独りで  
大音量で  
聴くための？

制作・レーベルデザイン/ONNYK (1989)

スリーヴデザイン/杉本みゆき

コンタクト：\*〒020 岩手県盛岡市中野1-10-31 金野吉規

標準小売価格¥1,400

ゼロ・レコードより配給予定

[\*のいずれかに直接お申し込みただけは値引きします]

片面：3曲/倉地久美夫 [作詞・作曲・演奏・録音]

①おろかな雲

②ごめんよ

③仕出し屋が来る

\*〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷3-11-10 あさひ荘 倉地久美夫



<SEPARATED SOLO PERFORMANCES>

LOVING THE OBSOLETE WORDS...

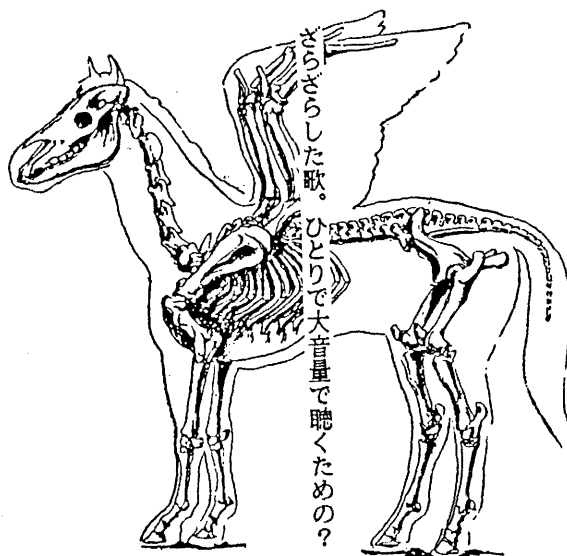
IDIOT CLOUD

HERE THEY COME

THE DOG SHALL DROWN

MR.TEXT'S NOTES

LIMB IN WORKING



HERE COMES THE VENDOR

EXCUSE ME

4 SONGS on SIDE-A

"ANO HITOTACHI GA YATTEKURU" "INU WA OBORE-SINU" "TEKUSUTO-SHI NO BENMEI" "SHIYOUCHUU NO TEASHI"

all songs written, played(with computer-operated synthesizer & el-g), sung and recorded by GESO

3 SONGS on SIDE-B

"OROKANA KUMO" "SHIDASHI-YA GA KURU" "GOMEN'YO"

all songs written, played(with ds, b, g & key boards), sung and recorded by KUMIO KURACHI

COVER ART BY MIYUKI SUGIMOTO / DESIGN BY ONNYK / INNER-NOTES BY SOMEONE

PRODUCED BY ONNYK

1989

この12インチ盤LPレコード(33rpm) = カップリング・アルバムのタイトルは「死語を愛して...」とい  
います。A面は<ゲソ>の四作品、B面は<倉地久美夫>の三作品を収録しています。(共演ではありません。  
せん。) もっともらしいレコード番号とかレーベル名はありません。孤立した一回きりの作業です。

各面の演奏・録音も当人によるものです。各曲の歌詞と雑文を記したカードが添付されています。

A面は演奏の殆どをパソコンによって打ち込み、シンセで各トラック毎に録音。ヴォーカルと、別な所で  
録音された無縁なノイズをミックスしました。B面はドラム、ベース、ギター、キーボード、ヴォーカル  
等各トラックを全てスタジオで録音しました。両面には何の関連もありません。またカバーのイラスト  
も全く曲を聴くことなく描かれました。その点についてはレーベル・デザインも、雑文も同様です。そう  
した意味でこのLPは『トータル・ディスコンセプト・アルバム』です。関連性や意味を見出すのは自由  
ですので、勝手に思いこんで下さると嬉しいです。

音楽的形式として「こうだ!」と言えるような特徴はなく、感情的には熱狂さも平静さもありません。機  
能としては、「このレコードをかけている間に限り、他のレコードを同じターン・テーブルに載せること  
は困難になる。」ということが予想されますが、それも希望的観測です。

生産者希望小売価格は1400円です。(price: 1400yen=\$10)

製作及び発売元: 020 岩手県盛岡市小杉山 1-24 金野吉晃 PHONE 0196-24-6740

contact: Y.KINNO 1-10-31 Nakano Morioka Iwate 020 JAPAN